

祥月法要のお知らせ

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの仏徳を讃嘆し、報謝の思いでお勤めする法要です。

日時… 二月 一日(日)

三月 一日(日)

(日本語…午前十時四十五分から)

(英語…午前十一時から)

※英語法要のみオンライン配信

オンラインでの参拝を希望される方は、その旨を寺院事務所までお知らせください。

ズームのリンクを送らせていただきます。

どうぞ故人が祥月でない方もご参拝下さい。

※四月より日本語の時間を変更しました。

法要後には地下のソーシャル

ホールにてお茶を飲みながら参加者同士の交流を楽しんでいただければと思います。



涅槃会・ペット追悼法要のお知らせ

日時… 二月 十五日(日)

涅槃会（ねはんえ）は、お釈迦さまがこの世を去られたことを偲ぶ法要です。浄土真宗では、この日をお釈迦さまを通して明らかにさ

れた阿弥陀さまの教えが、今も私たち一人ひとりに届いていることに耳を傾ける大切なご縁としていきます。

今年は、あわせてペットメモリアルサービスもお勤めいたします。ペットは大切な家族の一員です。その別れをご縁として、すべてのいのちを分け隔てなく包み込む仏さまの教えに、共に耳を傾けたいと思えます。

亡くなられたペットのお写真をお持ちいただき、感謝の心とともに偲ぶひとときをご一緒いたしましょう。



キャンプ・ルンビニのお知らせ

今年の夏もワサガビーチにあるコテージにて、恒例仏教サマーキャンプが行われます。

日時…七月二十六日(日)より八月一日(土)



八歳未満のお子さまは、三十一日(金)の一日体験キャンプとして参加いただけます。

詳しくは英語版ニュースレターにて

青少年国際研修団のお知らせ

旅行期間… 六月二十八日～七月九日

参加費… カナダドル千ドル＋航空券代

応募資格

- ✓ 浄土真宗の門信徒
- ✓ 高校卒業以上～二十四歳まで
- ✓ 心身ともに健康であること

申込締切…二〇二六年三月二十日

この研修旅行は、本山・本願寺の支援のもと実施される特別な教育プログラムです。北米、ハワイ、カナダ、南米教区の若い浄土真宗門信徒が参加し、日本文化に触れながら、仏教への学びを深める貴重な機会となります。旅行中は本願寺をはじめ、親鸞聖人ゆかりの地を訪問し、広島での平和学習プログラムにも参加します。また、世界各地から集まる同世代の法友たちと交流する機会もあります。ツアーに関するお問い合わせは、今年度引率責任者（橋本）までご連絡ください。

詳しくは英語版ニュースレターにて



あの霧の体験を通して、親鸞聖人のたとえの深さが、私自身の中で改めて実感されました。仏さまの光に照らされているからこそ、私は自分自身や自分の生き方を、かすかながらも見つめることができます。そして同時に、その光は、私の中に残る深い霧にも気づかせてくれます。だからこそ、迷い多きこの身のままで、阿彌陀仏に摂め取られ、やがて必ず無明を超えていく身であることを、ただありがたく受けとめるばかりです。

南無阿彌陀仏

アシスタントミニスター

ジェフ・ウイルソン

二〇二六年 寺院会費について

寺院会員の皆さまへ大切なお知らせを申し上げます。参拝者数やファンドレイジングは少しずつ回復してきているものの、残念ながら本年もご寄付および会費収入は目標に届きませんでした。また本年度はカナダ開教区からの年次分担金も、同様に諸経費の高騰を受け、例年より大きく引き上げられました。

これらの状況を踏まえ、誠に心苦しい限りではありますがありますが、以下の通り会費を改定させていただきますこととなりました。

・ 寺院会費 百八十ドル

・ ニュースレターのみ購読料 七十ドル

この決定は慎重に検討を重ねた上でのものであり、日頃より寺院を支えてくださっている皆さまへの深い感謝の思いとともにお伝えするも

のです。皆さま一人ひとりのご支援が、寺院の運営を支え、地域において仏法を伝え続ける力となつていきます。

申込については英語版のニュースレターの申込書にご記入のうえ、寺務所までご提出ください。名誉会員の方につきましても、記録を最新の状態に保つため、毎年申込書のご提出をお願いいたします。名誉会員には会費は不要ですが、ご無理のない範囲でのご寄付をいただけましたら幸いです。

ボランティアの皆様へ

寺院内外に問わず、トロント本願寺の護持発展に対して、ご尽力くださるすべての方々に感謝を申し上げます。合掌



モミジでの定例法要

(第2木曜日10時半～)

※昨年より午前中に変更

ブルージェイズの試合へ!

四月八日(水)午後三時七分 開始予定のドジャース戦に向けて、五十席分の団体席を確保しました。

チームを応援しつつ、新しく加入した日本人の岡本選手も応援しましょう。ご家族やお友だちと一緒に、楽しい一日を過ごしませんか? チケット代は一枚七十ドルです(今年もお寺が一部補助しています)。お一人につき最大五枚まで購入可能です。

※この座席はバリアフリー対応ではありませんのでご了承ください。

チケットは先着順になります。申し込みについて詳しくは英語版をご覧ください。

枕経のお知らせ

ご家族の枕経を検討されている場合は、当寺院の寺務所へご連絡いただくようお願いしております。ご希望の時間を調整し、ご一緒に臨終の仏徳讃嘆のお勤め、もしくは、故人を偲びながら、ご家族の皆さんとお勤めをさせていただきます。当寺院に事前にご連絡いただくことにより、ご家族の質問への対応や必要な情報を提供することが可能となります。

トロント本願寺

理事会

この歩みの中で、念仏が静かに、自然と聞こえてくるようであれば、それこそが大切なことです。正信偈がただ読まれるのではなく、「聞かれる」場として、そしてトロント仏教会が、ますます念仏の聞こえるお寺となっていくますように。

合掌

駐在開教使 橋本 顕正

雲や霧の下には、光がある



一月、私はリッチモンド（ブリティッシュコロムビア州）にあるステイブストン仏教会の報恩講での法話するために出かけました。コロナ以前以来となるサンガの皆さんとの再会は、とても

ありがたい時間でした。今回お世話くださったのは、グラント生田先生です。皆さんもご存じの通り、長年トロント仏教会に勤めてくださった先生です。

オンタリオでは大雪が続いていましたが、リッチモンドは一転して深い霧に包まれていました。霧は一日中消えないこともあり、車の運転では数台先の車しか見え、生田先生も慎重にハンドルを握っておられました。海辺を散歩したときには、普段なら見えるはずのバンクーバー島はもちろん、岸からすぐの場所にいる船さえ見え、歩いてみると霧の中から突然人が現れるような不思議な体験でした。

この体験を通して、私は親鸞聖人の正信偈の一節を思い出しました。

攝取心光常照護 已能雖破無明闇

貪愛瞋憎之雲霧 常覆真實信心天

譬如日光覆雲霧 雲霧之下明無闇

意識しますとこうなります。

摂め取って捨てない仏さまの光は、いつも私たちを照らし、護ってくださいています。無明の闇はすでに破られていると教えられます。けれど私たちは、むさぼりや怒りの雲に包まれ、仏さまの心を見失ってしまいます。それでも、雲の下に明るさがあるように、迷いのただ中にあっても、仏さまの心は変わらず私たちを包み続けています。（橋本訳）

霧の中にいる間、世界は確かに存在しているのに、私はその大部分を見ることができませんでした。太陽も、はっきり見える存在ではなく、霧の中の少し明るい場所として感じられるだけでした。しかし同時に、昼間であったため、足元や周囲の様子はある程度見えており、注意して歩けば危険ではありませんでした。自分の見えている世界がとても限られていることはわかっていましたが、それでも安心して歩くことができたのです。

親鸞聖人は、私たちの人生もこれと同じだと教えてくださいます。阿弥陀仏の智慧の光は、いつも私たちを照らしています。その光によって、私たちは自分自身に気づき、怒りや欲、自己中心的な心が起こってくることに、時折気づくことができます。しかし私たちの心はまだ

曇っており、仏さまのように物事をありのままに見ることはできません。仏さまが私たちを照らし、法がはたらいていることを、かすかに感じ取ることができても、現実を完全に見通すことはできないのです。

それでもこれは、真夜中の闇の中を歩くより、はるかに恵まれた状態です。すでに私たちは、自分自身や周囲の人々を、以前よりよく見ることができています。自分や他者の中にある根本的な善さを見ることができ、同時に、自分の中の「霧」つまり、貪り・怒り・無知という三毒にも気づくことができます。そして、真の仏となるまで、まだどれほど遠いのかも知らされず。

霧を通して届く光に支えられながら、私たちはより良い選択をし、暗闇の中なら避けられなかったかもしれない苦しみを、いくらか避けることができます。

海野大徹先生は、これを「リビングルームの電気をつけるようなものだ」と話されました。暗闇の中では家具にぶつかってしまいましたが、明かりをつければテーブルが見え、気をつけて避けることができます、それと同じだということです。

雲や霧があっても、その下には必ず光があります。その光に照らされながら歩む私たちの人生を、正信偈は静かに讃えているのだと思います。

【次頁に続く】

佛心

今月の正信偈と正信偈って何ですか？



一月の報恩講法要も無事に終わり、あとは春の訪れを待つばかりとなりました。しかし皆さまもご存じの通り、その「待つ時間」

が長いですね…。春を待つこの静かな季節、お寺で共に過ごしたひとときや、法要の中で長く大切にされてきたことへと心を向けてみたいと思います。

浄土真宗の法要には、ひとつの大きな特徴があります。それは、「みんなで一緒にお勤めをする」ということです。僧侶も門信徒も、初めてお参りされた方も、このお寺で育ってきた方も、並んで同じお経を読むのです。僧侶だけの特別なお勤めではなく、どなたでも参加することができます。

その中でも、浄土真宗のご家庭で育った方にとっては、「正信偈」がもつとも親しみ深いお勤めなのかもしれません。「帰命無量寿如来」という冒頭の言葉は、その意味を十分に理解する以前から、自然と耳にしてきた方も多いことでしょう。

今月から私のコラムでは、正信偈を皆さまと

二〇二六年二月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺

共に、やさしく味わっていきたいと思います。ゆっくり立ち止まりながら、静かに耳を傾けていきます。

最後までたどり着くのに何年もかかるかもしれませんが、それでよいと思っています。ここでお伝えしたいのは仏教の知識云々ではなく、正信偈の言葉を通して、阿弥陀さまのお心に出会わせていただくというご縁です。

正信偈の正式な名称は「正信念仏偈」で、英語では “Verses on True Shinjin and the Zensetsu (真実の信心と念仏の偈文)” と訳されます。

浄土真宗のお寺ではよくお勤めされるため、自然と「お経」だと思われることも多く、日曜礼拝でも「正信偈のお経」と呼ぶことがあります。しかし厳密に言えば、正信偈はお経ではありません。仏教という「経」とは、お釈迦さまが直接説かれた教えを指すからです。正信偈は親鸞聖人ご自身が著されたものであり、その意味で、伝統的な意味での経典ではないのです。では、親鸞聖人はどのようなお心でこの正信偈をお書きになったのでしょうか。偈文に入る直前、聖人は次のように記されています。

しかれば大聖の真言に帰し、大祖の解釈に閱して、仏恩の深遠なるを信知して、『正信念仏偈』を作りていはく、（註釈版聖典二〇二頁）

この「大聖」とは釈尊を指し、「真言」とは『大無量寿経』に説かれる阿弥陀さまの本願の教えを意味しています。つまり正信偈は、親鸞聖人の独自の思想を示した書物ではなく、阿弥陀さまの本願と大悲を深く聞かれたところから生まれた偈文なのです。

正信偈は七字一句、全百二十句から成っています。最初の二句には、正信偈全体の要が凝縮され、親鸞聖人ご自身の信心が表されています。続く四十二句では『大無量寿経』に基づいて阿弥陀仏の本願が讃えられ、残る七十六句では七高僧の教えを通して阿弥陀仏が讃嘆されます。このように見ていくと、正信偈はまさに阿弥陀さまを讃える偈文であることがわかります。

ちなみに正信偈が日常のお勤めとして広くとえられるようになったのは、十五世紀、本願寺第八代・蓮如上人の時代です。蓮如上人は「ともに聞法する」ことを大切にされ、僧侶と門信徒が並んでお勤めする形として、正信偈を広められました。「正信偈がわかれば浄土真宗がわかる」とよく言われます。これは知識として理解するという意味ではなく、仏さまが私たちをどのようにご覧になっているのか、そして迷い多き私たちがそのままで深くそのはたらきに抱かれていくことなどに、少しずつ気づかされていくということなのだと思えます。皆さまと共に仏さまのお心を、ゆっくりと感じていけたらと思います。

【次頁に続く】